



流れ作業で丁寧に仕上げていきます

自分たちでできることがあります

年でしたかね。高村白寿会といふ老人クラブの有志四、五人が、自分たちでできることをと集まつて彼岸花を作り始めたのがきっかけです。会員は多い時で十人もいましたが、現在七十六歳から八十五歳まで十一人です。

会ができるのは、昭和五十二年でした。高村白寿会といふ老人クラブの有志四、五人が、自分たちでできることをと集まつて彼岸花を作り始めたのがきっかけです。会員は多い時で十人もいましたが、現在七十六歳から八十五歳まで十一人です。

会の名は、暇な人が集まつてくらということで気軽に付けていたのですが、はじめはほかの老人クラブに笑われました。忙しく会にしようかと思ったこともありますよ。

自分たちでできることがあります

六人もいましたが、現在七十六歳から八十五歳まで十一人です。

家にこもつて一人でいるよりは、みんなが集まって何かをしているのって楽しいですね。今回は、地域の高齢者たちが集まり、和気あいあいとしめ飾り作りに精を出している、二井田地区の高村ヒマ人会の皆さんをご紹介します。高村白寿会館を訪ね、代表の伊藤正一さんからお話を伺いました。

高村ヒマ人会

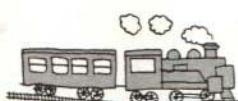


20



親ぼくと老け防止に

横浜発 → 大館着



Q・大館市の印象はいかがですか？

都会から来たせいか、商店街には人通りが少ないし、お店は午後七時で閉めるので寂しい感じがしました。でも、自然に囲まれてきれいなまちですし、水と空気はおいしいですね。上の子は、年に三、四回ぜん息の発作を起こしてたんだですが、こちらに来てからまだ一度も起こしてないんですよ。

Q・言葉や食べ物などはどうですか？

食べ物では特にないです。言葉は、お年寄りとの会話の中で分からぬのがあって、二、三ヶ月はとまどいましたね。

Q・大館にどんなことを望みますか？

大館に戻りたいという人のために、職場を確保するなどの環境づくりがもつと必要だと思います。また、子供連れで憩えるベンチのある広場なんか大町にあればいいですし、スケート場もあればと思います。

前略

大館市民になりました

21

☆今日は水門町の松坂雄治さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

妻と子供三人の五人です。上の子は桂城小学校の一年生、中の子は大館ホテヤ幼稚園の年中組、下の子は二歳で、みんな女の子なんですね。

Q・どちらから転入されましたか？

横浜市から今年の三月にきました。私は山形県金山町の出身で、妻は大館なんです。田舎で暮らしたくなつて妻の実家に帰ってきたんです。

今は、彼岸花のほかにしめ飾りとしめ縄も作っています。一時はかこべ（かご）やみも作りましたね。しめ飾りは、市内の老人クラブを対象に、昭和五十六年に獅子ヶ森にある老人いこいの家で開催された講習会に参加してから作り始めました。また、しめ縄は、高村神社の鳥居にしめ縄がなくて寂しかったことから作って奉納し始めたんですね。確かに五十七年からだつたと思います。今は、二井田八幡神社と大館神明社のしめ縄も作っています。

作業は年々はかどらなくなつてきましたが、会員のみんなは世間話をするのが楽しみで集まつてきています。それ何かしないと早く老けますからね。

Q・大館にどんなことを望みますか？

大館に戻りたいという人のために、職場を確保するなどの環境づくりがもつと必要だと思います。また、子供連れで憩えるベンチのある広場なんか大町にあればいいですし、スケート場もあればと思います。

